



各 位

平成 21 年 10 月 28 日

会 社 名 FDK 株式会社
代表者名 代表取締役社長 小野 統造
(コード番号 6955 東証第 2 部)
問合せ先 広報・IR 室長 成重 靖浩
TEL (03)3434-1271

当社の親会社 富士通株式会社
代表者名 代表取締役会長 兼 社長 間塚 道義
(コード番号 6702 東証・大証・名証第 1 部)

平成 22 年 3 月期連結業績予想の修正ならびに 事業構造改革の進捗に関するお知らせ

当社グループの構造改革の進捗等を踏まえ、平成 21 年 4 月 28 日に公表しました平成 22 年 3 月期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 当期の連結業績予想の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	67,000	2,150	1,100	800
今回予想(B)	70,000	2,500	1,600	1,000
増減額(B)-(A)	3,000	350	500	200
増減率	4.5%	16.3%	45.5%	25.0%
(ご参考)前期実績	78,475	△1,350	△4,292	△12,076

修正の理由

当社を取り巻く市場環境は、リーマンショック以後、一部では改善の動きがみられますものの、期後半から先行き不透明な状況が予想されます。しかしながら本日発表いたしました電池事業に関する株式の取得も含め、これまで当社グループで進めてまいりました事業構造改革の進捗状況等を勘案し、平成 21 年 4 月 28 日に公表いたしました予想値を上記のとおり修正いたします。

2. 事業構造改革の進捗状況について

当社グループは、経営再建のため、事業構造改革を推進し、昨年 1 月には「FDK グループの成長に向けた新たな方針と施策」を公表し、創業製品であります電池と素材技術に立脚した電子部品へ注力するという新たな事業構造改革を進めてまいりました。

これまでにステッピングモータ事業の譲渡を皮切りに、モジュールシステム事業の国内拠点であります FDK モジュールシステムテクノロジー株式会社いわき工場の休止、国内外の人員削減等を行なうなど、既存事業の抜本的な改革を進めてまいりました。これらの効果により当上半期におきましては、営業利益が大幅な利益増となり、経常利益段階でも黒字化いたしました。

しかしながら、これまでの取り組みは、いわゆる縮小均衡の施策であり、当社グループが今後飛躍するためには注力事業の強化が必要であります。今般、これまで堅実に利益を計上してまいりま



した電池事業については、事業強化のため、ニッケル水素電池事業を営む三洋エナジートワイセル株式会社ならびに円筒形リチウム一次電池およびコイン形二次電池事業等を営む三洋エナジー鳥取株式会社の株式を取得することといたしました。

本件株式取得により当社グループの電池事業は、自動車向け電池を除く主要な民生用電池を生産することとなり、事業全体の強化が図れるものと考えており、当社として電池を中心に据えたビジネスドメインが明確になります。また、産業用電池の分野を中心に、リチウムイオンキャパシタを推進するとともに、地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出削減につながる製品の開発などに向け電池・電子部品に関する技術を活用しお客様へ展開することで、FDK 全体として大きなシナジーが期待できるものと考えております。

さらに電子事業におきましては、当社グループが持っている固有の素材技術を活用し、電子部品のパワー領域と高周波領域の二つにフォーカスした事業展開により、市場ニーズに合致した製品の提供を進めております。

なお、リチウムイオンキャパシタにつきましては、研究開発段階から事業化へ向けた量産段階に移行しており、今年度から本格的な設備投資を進めております。

当社グループは今後も構造改革を実行するとともに、さらなる成長を目指して事業の強化を進めてまいります。

以 上

(注意事項)

上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績等は、今後様々な要因により、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合があることをご承知おきください。